

幼 稚 園

平成22年度

教育研究員研究報告書

幼 稚 園

東京都教育委員会

目 次

I	主題設定の理由	1
II	研究の視点	1
III	研究の仮説	1
IV	研究の方法	1
V	研究の内容	2
VI	実践事例	6
VII	検証保育	12
VIII	研究のまとめ	16
IX	今後の課題	16

研究主題・副主題

「主体的に遊ぶ幼児を育てる ―乗り越える体験への援助を探る―」

I 主題設定の理由

現在、幼児を取り巻く環境は変化している。パソコンや携帯電話、テレビ等により多くの情報があふれ、幼児は知識を得ることが多くなった。それにより、幼児が幼稚園での遊びの中で、様々な情報から見聞きしたことを再現したり、取り入れたりしながら遊びを楽しむ姿が見られるようになった。

その反面、戸外で遊んだり、同年齢の幼児同士が関わって遊んだりするなど、幼児が直接的な体験を通して学ぶ機会が少なくなってきた。そのため、知識として知っていても実際にやったことがないため自信がもてずに遊び出せない、友達との関わり方が分からない、初めてのことや自分の思いに反した出来事が起きたときにどのように対処すればよいのか分からない、といった幼児の姿も見られる。

このように遊びの中で困ったり思い通りにならなかつたりすることは、幼児にとって課題や困難といえる。幼児自らがそれらのことと向き合い、考え、遊びを進めていくことができる“乗り越える体験”をすることが大切だと捉えた。

そこで、遊びの中で心を動かされるような直接的な体験をしながら、課題や困難を乗り越え、主体的に遊ぶことができる幼児を育てるための教師の援助の在り方を探ることとした。

II 研究の視点

幼児が課題や困難と向き合い、心を動かされる体験をしながら、それを乗り越えて主体的に遊ぶことができるようにするための教師の援助の在り方を探る。

III 研究の仮説

教師の温かい眼差しや受け止められているという安心感に支えられ、やってみたい、思わず体が動く、憧れの気持ちをもつなどの心が動く体験を多く重ねることは、幼児が意欲的に遊びや生活に取り組む力を身に付けることにつながる。

幼児が遊びの中で困難な場面に出合ったときも、「やってみたい」「こうしてみよう」など、心を動かされる体験を通して、自ら遊ぶことができるよう教師が援助をすることで、主体的に遊ぶ幼児を育てることができる。

IV 研究の方法

基礎研究及び事例研究を通して、「主体的に遊ぶ幼児の姿」を捉えるとともに、「課題や困難に出合った幼児の状況を理解する視点」を明らかにした。

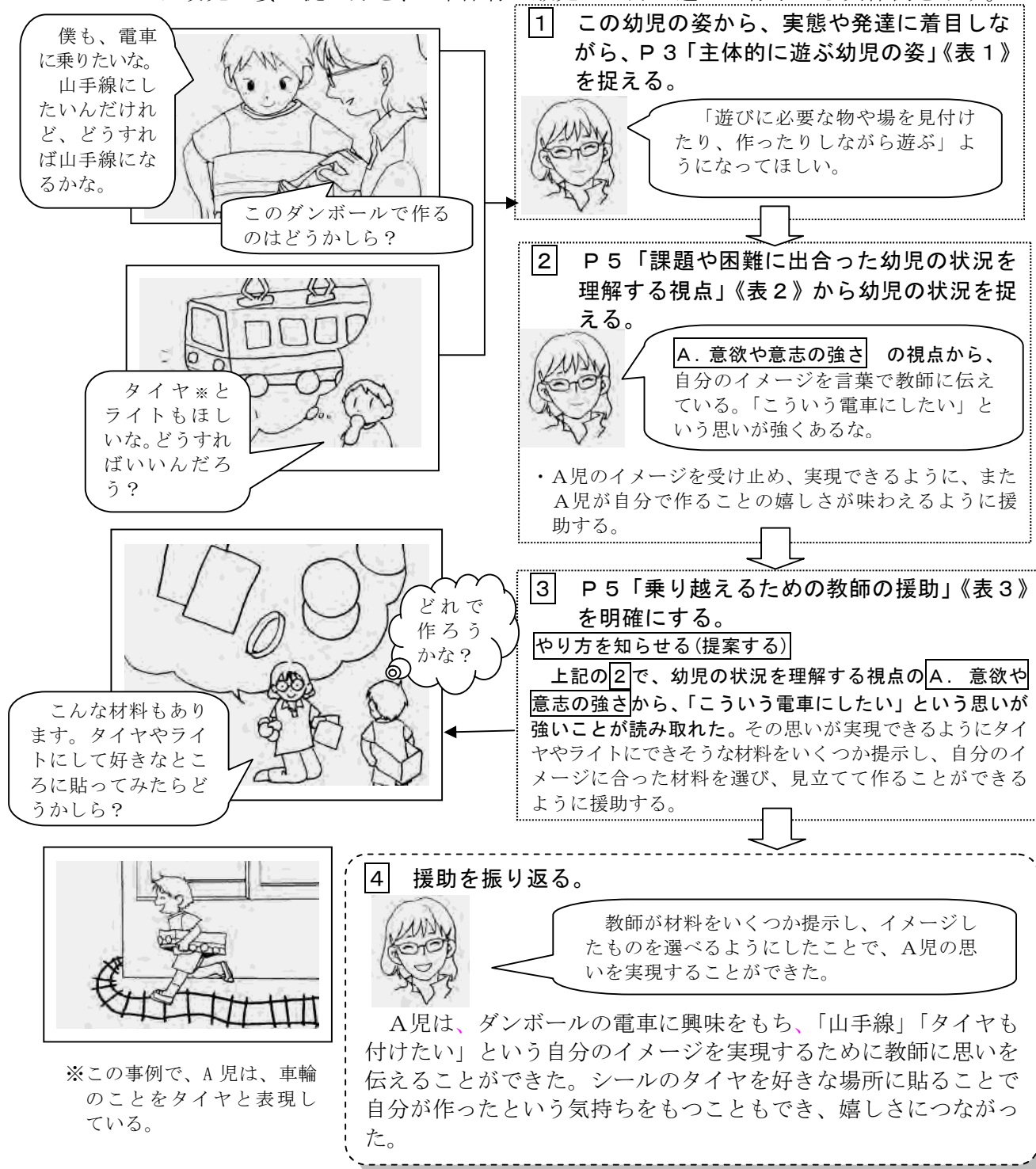
また、事例研究、検証保育を通して、「課題や困難に出合った幼児の状況を理解する視点」から幼児の状況を把握し、幼児が課題や困難を乗り越え、主体的に遊ぶことができるようにするための教師の援助の在り方を探った。

V 研究の内容

本研究では、「主体的に遊ぶ幼児の姿」を年齢ごとに明確に捉え（P 3《表 1》）、その姿を目指して、教師が援助していくことが重要であると考えた。その際、指導の方向性を明確にもてるように、「課題や困難に出合った幼児の状況を理解する視点」（P 5《表 2》）を基に「乗り越えるための教師の援助」の在り方を考え、表にまとめた。（P 5《表 3》）

1 幼児が主体的に遊ぶことができるようにするための教師の援助への道筋

ここでは幼児の姿の捉え方を、2年保育4歳児の5月の遊びの様子から具体例を示す。



※この事例で、A児は、車輪のことをタイヤと表現している。

2 「主体的に遊ぶ幼児の姿」《表1》を捉える

基礎研究及び事例研究を通して幼児の姿を分析し、それを基に「主体的に遊ぶ幼児の姿」を捉える五つの視点を設定するとともに、その視点について年齢ごとの幼児の姿を具体化することとした。この分析を通して、幼児の姿を捉える視点として、「場への関わり」「人との関わり」「物との関わり」「自分自身への気付き」、そして「言葉での表出」という五つの視点を設定した。

《表1》

	3歳	4歳	5歳
場への関わり	<ul style="list-style-type: none"> 自分のロッカーの場所やマークを知り、安心してその場にいる。 見知った物(遊具)を見付け、その場で安心して遊ぶ。 自分の居場所が分かり、戻る(所属意識)。 教師について行きながら一人で行動できる範囲が広がる(行動範囲が広がる)。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師と遊ぶ場をつくることで遊び方が分かり、自分で家や基地などをつくって遊ぶ。 友達と一緒に気に入った家や基地などを繰り返してつくって遊ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と話し合っ自分たちの遊び場をつくって遊ぶ。 自分たちで保育室を整える。 場の特性を感じて、自分たちでイメージした遊びに適した場を選ぶ。
人との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 教師を頼りにし、姿が見えるところにいることで安心する。 友達の存在に気付く。 好きな友達と同じ場所で遊ぶ。(→P6 事例) 友達と同じことをやってみる(まねる)。(→P6 事例) 	<ul style="list-style-type: none"> 教師との関わりを喜んだり、楽しんだりする。 自分なりの動きで友達に働きかける。 自分から友達の遊びに加わる。 友達がしていることを自分の中に取り入れて遊ぶ。(→P7 事例) 	<ul style="list-style-type: none"> 友達と協力して工夫したり、役割を分担したりする。(→P9 事例) 友達と目的やイメージを共有する。 相手を認め合う。 集団の中で、自分で考え、判断したり、行動したりする。 友達や異年齢との関わりの中で、思いやりの気持ちをもつ。 遊びや生活に必要なきまりを自分たちで考え守ろうとする。
物との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 身近な遊具、用具を使って遊ぶ。(→P6 事例) 友達の持っている物に気付き、手を伸ばす(ほしがらる)。 好きな友達と同じ物を持つたり身に付けたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分のほしい物を探す。 遊びに必要な物や場を見付けたり、作ったりしながら遊ぶ。(→P2) 	<ul style="list-style-type: none"> 遊びに必要な物が分かり、自ら見付けたり、作り出したりして遊ぶ。 考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。 いろいろな物の仕組みに興味をもち、遊びに取り入れる。

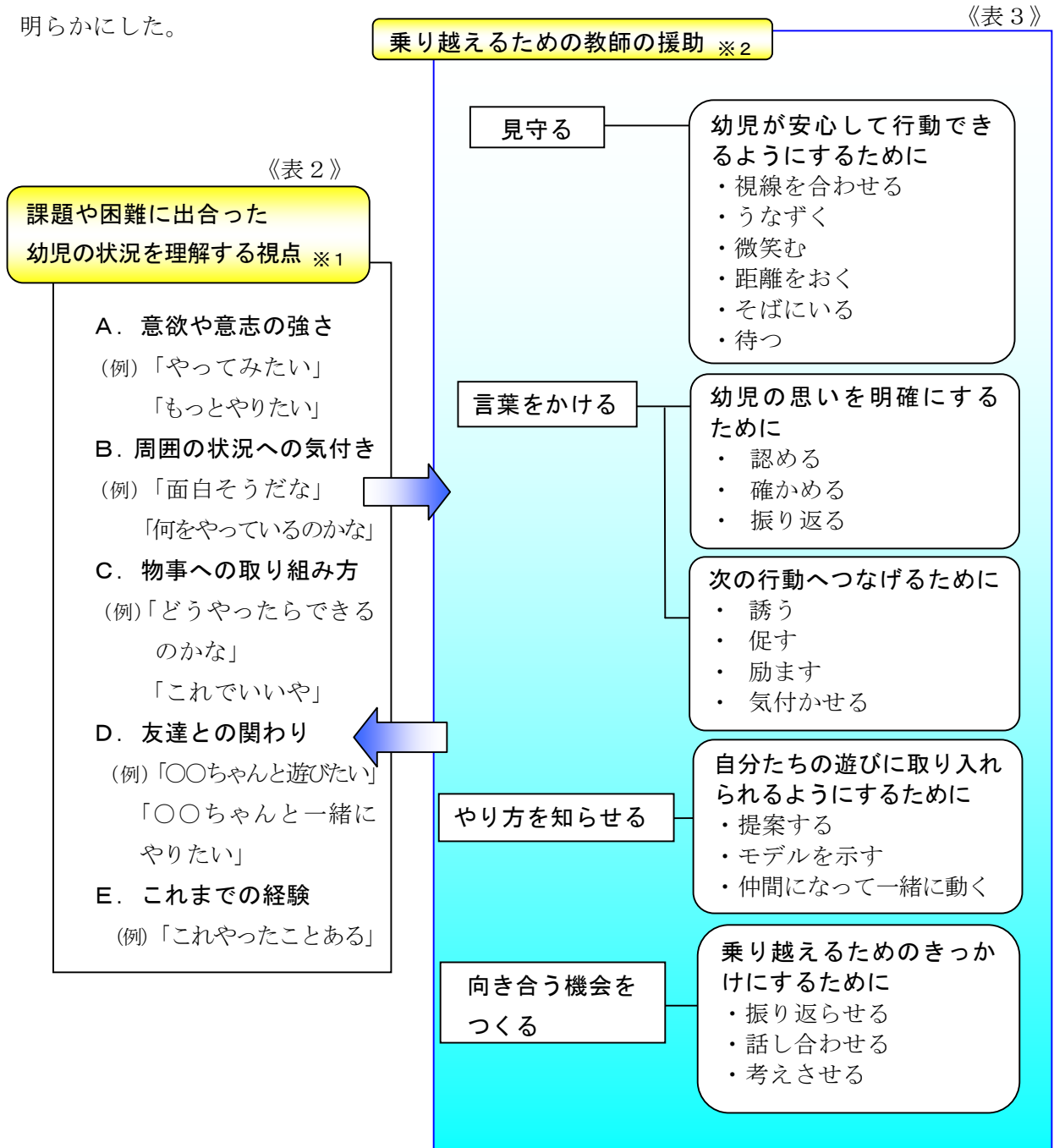
	3歳	4歳	5歳
自分自身への気付き	<ul style="list-style-type: none"> ・手洗い、排泄、着替えなど、身の回りの始末について分かり、自分で行おうとする。 ・周りの様子に少しずつ気付き、視野が広がる。 ・新しく興味をひく物や動きを見付けると、すぐに取りかかる。 ・以前楽しかった遊びを思い出して取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを自分で行う。 ・「こうしたい」という気持ちをもつ。 ・自分から動き出して遊びを見付けたり、選択したりする。(→P12 検証保育) ・自分のイメージをもって遊ぶ。 ・繰り返し遊ぶ。 ・自分なりに試しながら遊ぶ。(→P7 事例) ・自分なりのやり方で遊んだり、遊び方を考えたりする。 ・経験したことを自由に表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのことを自分で行い、生活に見通しをもって行動する。 ・いろいろなことに興味や意欲をもって関わる。 ・自分なりのイメージや目的をもち、継続して実現しようとする。 ・周りのことをよく見て行動する。 ・考えたり試したりして、繰り返し遊ぶ。 ・自分なりに活動の意図を意識したり、想像したりして動く。 ・経験したことを取り入れて遊ぶ。
言葉での表出	<ul style="list-style-type: none"> ・要求を教師に訴える。 ・嬉しかったり嫌だったりを体全体で表現する。※ ・自分の話したいことを話す。 ・友達の言葉をまねて繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からないことや困ったことがあるときに教師に援助を求める。 ・自分の思っていることや経験したことを教師や友達に話す。 ・驚きや発見などを自分の言葉で表現し相手に伝える。 ・相手の思いや考えを聞こうとする。(→P12 検証保育) 	<ul style="list-style-type: none"> ・分からないことや困ったことがあるときに教師や友達に援助を求める。 ・自分の思いや考え、経験したことなどを相手に分かるように伝える。 ・友達と相談したり伝え合ったりする。(→P9 事例) ・発見したことを伝え合う。 ・相手の思いや考えに気付き、受け止め、伝え合う。

※体で表現することを、3歳児の場合は言葉で表すことの前段階として捉える。



3 「課題や困難に出合った幼児の状況を理解する視点」《表2》と「乗り越えるための教師の援助」《表3》

幼児が困ったと感じたり思い通りにならなかったりする場面で、それを乗り越えられるように教師が援助するためには、教師が、幼児の状況を理解した上で、指導していくことが重要であると考えた。そこで事例の中の教師の援助を分析し、「課題や困難に出合った幼児の状況を理解する視点」を設定し、その上で「乗り越えるための教師の援助」の在り方について明らかにした。



※1 「課題や困難に出合った幼児の状況を理解する視点」は、以下事例では「幼児の状況を理解する視点」と示す。

※2 「乗り越えるための教師の援助」では、幼児の思いや考えを教師が「受け止める」ことで安心して自分を出せるようにすることを前提として考えている。

VI 実践事例

本研究では、5ページの「乗り越えるための教師の援助」を具体化できるように実践に取り組んだ。ここでは、特に各学年の「主体的に遊ぶ幼児の姿」の実現を目指して、教師が援助を工夫した事例を紹介する。

事例1 「いいのができたね」

3年保育 3歳児 9月

○ 教師が願う主体的な幼児の姿（「主体的に遊ぶ幼児の姿」《表1》から）


- ・好きな友達と同じ場所で遊ぶ。
- ・友達と同じことをやってみる（まねる）。
- ・身近な遊具、用具を使って遊ぶ。

○ それまでの遊びの様子

- ・B児とC児は好きな遊びが見付からず、二人で大きな声を出したり、室内を走ったりしていた。教師はB児とC児が自分たちの場をつくることによって、安心してじっくりと遊べるようになると考え、積み木を組み立てる遊びへと誘った。



○ 実際の展開

幼児の動き	幼児が心を動かされていること	教師の援助・教師の思い
<ul style="list-style-type: none"> ・ B児とC児は追いかけっこをやめ、積み木を組み立て始める。他の幼児も同じ場での遊びに加わる。 ・ D児が、B児とC児が組み立てた積み木に興味をもち、近寄って触るが倒してしまう。 ・ B児とC児は「壊れちゃった！」と大笑いしながら、倒れた積み木の上に乗る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一緒に動くことの楽しさ ・ 積み木を倒すことの楽しさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 積み木を幼児に渡したり積み上げたりするのを手伝い、遊びが楽しくなるようにする。 <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>積み木を崩して遊ぶことに意識が移ってしまった。 作り上げる楽しさを感じてほしい。</p> </div>  <ul style="list-style-type: none"> ・ D児には倒してしまったことよりも作る楽しさを感じられるように、また、B児とC児には積み木が倒れたことにこだわらないように、「もう一回、先生と一緒に作ろう！」と誘いかけをする〔考察 P7参照〕。 ・ 「高く積んだね」「これは何を作ったの？」と、それぞれのイメージを引き出したり、積み木を手渡したりしながら、作ることを楽しめるようにし、「いいのができたね」と声をかける。

○ 考察

B児とC児が積み木に関わる姿から

<p>幼児の状況を理解する視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・D. 友達との関わり」の視点から、友達と同じ動きや同じ遊びを楽しんでいる。 ・C. 物事への取り組み方」の視点から、積み木を倒すことを楽しみ、作ることへのこだわりがない。
<p>乗り越えるための教師の援助</p>	<p>言葉をかける（誘う）</p> <p>教師は同じ動きをすることを楽しむB児とC児の姿は大切にしながらも、積み木で作って遊ぶ楽しさを知らせたかった。そのため、積み木が倒れた場面では、積み木が倒れたことが面白くて笑っているB児とC児の思いを十分に理解した上で、次の遊びへと誘いかけるための言葉かけを行った。</p> <p>B児とC児が教師の誘いを受け、遊びを再構成していったことで、作り上げることの楽しさに気付き始めた。</p>

○ その後の幼児の姿 <作る楽しさを感じる>

B児は、仲のよい幼児の作った乗り物に気付き、それをまねて作るようになった。他の幼児がC児の使っている積み木を持って行こうとすると、「ぼくが使っているの」と言い、怒る姿も見られた。C. 物事への取り組み方」の視点から、自分で作ったもので遊ぶ楽しさを感じる経験を積み重ねることで、自分が使っている物に愛着を感じ、作ることを少しずつ楽しめるようになってきた。



事例2 「お水を汲みたいな」

2年保育 4歳児 5月



○ 教師が願う主体的な幼児の姿（「主体的に遊ぶ幼児の姿」《表1》から）





- ・友達がしていることを自分の中に取り入れて遊ぶ。
- ・自分なりに試しながら遊ぶ。

○ それまでの遊びの様子

- ・E児は普段から好奇心が旺盛である。教師がベビーバスに水を張っておくと、友達がジョウロで水を汲んでいる様子を見て、自分も汲もうとする。

○ 実際の展開

幼児の動き	幼児が心を動かされていること	教師の援助・教師の思い
<p>・ジョウロを手に持ち、そのまま真下に向かって水の中に押し込み、水を汲もうとするが、上手くいかない。</p>	<p>・他の幼児がやっていたように、自分にはできないもどかしさ</p> 	<p>・上手くいかない状況を把握しつつも、自分で何とかしそだったので見守る。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;"> <p>あきらめないでやってみることで、自分なりにできる方法を見つけてほしい。</p> </div>  <p>・教師に意思を伝えに来るか</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・何度も繰り返し水を汲もうとするが、上手くいかない。  <ul style="list-style-type: none"> ・隣で、5歳児がジョウロを横に倒して上手に水を汲んでいく姿を目にする。 ・自分もジョウロを横に倒してやってみて、“できた”と喜ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・何回やっても上手くいかないもどかしさ <ul style="list-style-type: none"> ・まねをしたいことに出会えた嬉しさ ・“水を汲めた”“自分でできた”達成感 	<p>もしれないと予想し、E児の動きに注意しながらそばで様子を見る〔考察①〕。</p> <p>繰り返してやってみながら、どうすればよいか自分なりに考えてほしい。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・E児はまねをするだろうと思ひ、あえて、そのことを意識できるような言葉かけの必要はないと判断する〔考察②〕。 <p>5歳児のやり方をまねして、自分のやり方として取り入れて遊ぶことを楽しんでほしい。</p> 
---	--	---

○ 考察

① E児は興味をもったことをやってみるが、上手くいかなかった姿から

幼児の状況を理解する視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ A. 意欲や意志の強さの視点から、意欲はあり、やり遂げたいという気持ちがある。 ・ C. 物事への取り組み方の視点から、物事にじっくりと向き合っている。
乗り越えるための教師の援助	<p>見守る（そばにいる）</p> <p>教師は、E児が自分で何とかしようとしている姿を大切にしながら、E児の動きがよく見えるところで見守ることにした。そして、E児ができなくて困った時にE児から教師に相談することができるようにした。</p> <p>教師はあえてE児に言葉をかけず、そっと見守ることで、E児が自分で試しながらじっくりと遊び、自分の思ったことをやり遂げることができた。</p>

② E児が5歳児のやり方を見ている姿から

幼児の状況を理解する視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ B. 周囲の状況への気付きの視点から、E児は遊びの中で5歳児がジョウロに水を汲んでいる様子に気付いて見ている。
乗り越えるための教師の援助	<p>見守る（距離をおく）</p> <p>教師は、E児が5歳児のやり方をまねてやってみるだろうと予想した。そこで、「年長組さんのようにやってみよう」「ジョウロを横に倒すと水を汲めるね」など、やり方を意識できるような言葉をかけず、自ら解決するまで待ち、見守ることで、自分で考え、やり方を見付けることができた。</p>

○ その後の幼児の姿 <これまでの経験を活かし、自分たちで遊び方を考える>

水を汲めるようになったE児は、連日、砂場で水を汲んでは流す遊びを繰り返していた。ある日、友達と掘った道に水を流し、おもちゃの船を浮かべようとしたが、個々にジョウロで水を汲んで来て入れるため、船は動かない。教師が**E. これまでの経験**の視点から、少し声をかければ以前やったことを思い出すと考え、「前はどうしたのかな？」とつぶやいた。少し考えたE児は「みんなで一緒に流せばいいんだよ」と言った。みんなでジョウロに水を汲んで来て、一斉に流すと船が動き、「やった～！」と歓声が上がった。経験したことを次の経験に生かせるようになってきた。

事例3 「お客さんが集まらない！」

2・3年保育5歳児 5月



○ 教師が願う主体的な幼児の姿（「主体的に遊ぶ幼児の姿」《表1》から）


- ・友達と協力して工夫したり、役割を分担したりする。
- ・友達と相談したり伝え合ったりする。

○ それまでの遊びの様子

- ・前日、F児とG児がホールに積み木を並べてステージをつくり客席を用意すると、客が集まり出し、二人は音楽に合わせて踊る“ショーごっこ”を楽しんだ。
- ・F児、G児、H児は前日の遊びを思い出し、声をかけ合って客席とステージをつくり始める。

○ 実際の展開

幼児の動き	幼児が心を動かされていること	教師の援助・教師の思い
<ul style="list-style-type: none"> ・教師に音楽をかけてもらい踊ってみるが、前日のようにはなかなか客が集まらない。 ・友達と一緒に、解決策を考える。 ・自分たちの遊びの存在を知らせるために、「ショーをします。お客さん来てください」と友達に呼びかけながら、園内を回る。 ・それでも客が集まらず、「お客さんが集まらないの。どうしよう？」と教師に声をかける。 ・教師や友達と一緒に他の解決策を考える。 ・自分たちでチケットを作って配ることを考え、作り始める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・思うように遊びが進まず困る気持ち ・友達と一緒に考えた方法を試してみようと張り切る気持ち ・以前、お店屋さんをやった時のことを教師や友達と一緒に思い出し、あの時のように楽しみたいという思い ・遊びに必要な物を自分たちで作ることの楽しさ。 ・友達と一緒に遊びを進めていることや、仲間の一員であることの嬉しさ 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びが思うようにいかない様子に気づき、遠くから見守る。 ・自分たちで解決策を考えている姿から、幼児の様子を見守る。 <div data-bbox="1018 987 1273 1196" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>自分が感じている思いを友達と共有し、自分たちの力で遊びを進めてほしい。</p> </div> <div data-bbox="1273 1021 1390 1196" style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「それは困ったね」と幼児の思いに共感し、「他にいい方法はないかな？」と幼児と一緒に解決策を考える〔考察①〕。 ・「前にお店屋さんをやってお客さんが来なかったとき、どんなふうにした？」と、これまでの経験を思い出すことを提案する〔考察①〕。 <div data-bbox="1018 1532 1273 1697" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>教師の言葉をヒントに、できる限り自分たちで解決策を見つけてほしい。</p> </div> <div data-bbox="1286 1518 1402 1693" style="text-align: right;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・幼児の様子を見守るとともに、シールを用意したり、文字の書けない幼児の代わりに文字を書き込んだりと、必要に応じて一緒にチケットを作る。 ・「きっとお客さんがたくさん集まるだろうね」と幼児を励ます。 ・「ショーではどんなことをする

<ul style="list-style-type: none"> ・ショーの具体的な内容や構成を友達と相談する。「最初にはじめの言葉を言おう！」「次に歌を歌って、握手のサービスをしよう！」などの考えが出る。 ・チケットを園内中の友達に配ると、お客さんがたくさん集まる。 ・大勢の客の前で、張り切ってショーをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と遊び方を考え、イメージを共有できる嬉しさ ・自分たちでお客さんを集めたことへの嬉しさ ・自分たちの遊びを、友達に受け入れてもらうことの嬉しさ 	<p>の？」とショーの内容や構成を考えることに気付かせる[考察②]。</p> <p>遊びに見通しをもち、それらを友達と共通の意識としてもってほしい。</p>  <p>お客さんに喜ばれるようなショーをして、充実感を味わってほしい。</p>
---	--	---

○ 考察

①自分たちで相談し、園内を回りながらショーの存在をみんなに知らせる姿から

<p>幼児の状況を理解する視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ A. 意欲や意志の強さの視点から、ショーごっこをしたいという意欲がある。 ・ D. 友達との関わり視点から、意見を言い合える関係が築かれている。 ・ E. これまでの経験の視点から、同じような経験があるが思い出せない。
<p>乗り越えるための教師の援助</p>	<p>やり方を知らせる (提案する)</p> <p>友達と一緒に意見を出し合い、自分たちで解決策を見付け出せるだろうと考え、具体的な解決方法の提案ではなく、自ら考えを導き出せるように、これまでの経験を振り返ることを提案した。その結果、これまでの経験を生かして看板を作ったり音楽をかけたり品物を持って回ったりしたことを思い出し、それを参考に新たな解決策を自分たちで考えることができた。</p>

②友達と協力してチケット作りを始める一方で、客を集めることのみが先行している姿から

<p>幼児の状況を理解する視点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ D. 友達との関わり視点から、イメージを共有できる関係が築かれている。 ・ B. 周囲の状況への気付き視点から、遊びの見通しがもてていない。
<p>乗り越えるための教師の援助</p>	<p>やり方を知らせる (提案する)</p> <p>教師は、友達と一緒にショーの内容を考えることを提案した。すると、具体的な遊びの見通しをもって考えを出し合い、友達とイメージを深め、共有することができた。その結果、集まった客に喜んでもらうことができ、自分たちも充実感や満足感を味わうことができた。</p>

○ その後の幼児の姿

<5月下旬：遊びの継続、遊びの広がり>

- ・遊びへの充実感と意欲を高めたF児たちは、連日のようにショーを繰り返した。初めはお客として遊びを見ていた幼児も、遊びが続くうちに、ステージに上がりショーへ参加する姿が見られた。

<6月：他学年への遊びの広がり>

- ・それまでの遊びの様子を見ていた4歳児が、5歳児をまねてステージをつくり、チケットを配りに来る。F児たちは嬉しそうに客席に座り、4歳児のショーを見ていた。

<9月：遊びの発展>

- ・F児がG児とH児を遊びに誘おうとすると、二人は製作コーナーで何かを作っていた。

F児「何を作っているの？」

H児「魔法の鍵。ショーの中で使うの。私がお姫様で、Gちゃんは妖精。この鍵は妖精が持っていて、お姫様が捕まってしまったときに、妖精がこの鍵で助けてくれるの」

F児「私も入れてくれる？」

その後も、お姫様の家やステッキなど、ショーに必要な道具を自分たちで考え、作り始めた。その様子を見ていた他の幼児も遊びに加わり、ステージでショーが始まった。



<10月：これまでの経験を思い出し、自分たちで遊びを進める>

- ・F児たちが教師のところへやって来て、「お弁当の後に新しいショーをやるから、見に来てね」と話しかけてきた。昼食後、自分たちで5月の経験を思い出し、チケットを作り始めた。



すると、「ショーで踊る曲はどうする？どうやって踊る？」とチケットを作りながらショーの内容を相談し始めた。始めの言葉、歌、ダンスなど、自分たちの考えでショーの内容が構成されており、友達とイメージを共有しながら楽しむ姿が見られた。お客として来たH児は空き箱でカメラを作り、ショーの様子を写真に撮って楽しんでた。

<11月上旬：遊びの発展、これまでの経験を思い出し、自分たちで遊びを進める>

- ・F児たちを中心に再び新しいショーが始まる。「歌を歌うマイクが作りたい」と教師に相談に来たので、幼児のイメージを聞き、一緒にマイクを作った。他の幼児も加わり遊びの輪が広がると、自分たちでショーの内容や動きを相談し、お客の前で歌って踊ることを楽しんだ。ショーは連日続き、3歳児や4歳児もお客としてたくさん集まった。



<11月中旬：他学年への遊びの広がり、他学年との遊びの共有>

- ・これまでの遊びの様子を見ていた4歳児がホールでショーを始める。その日、自分たちもショーをしようと考えていたF児たちは、教師の提案で1つのステージを4歳児と交代で使うことにし、それぞれのショーを交代で楽しんだ。

<11月下旬：他学年への遊びの広がり、遊びの相互作用(お互いの遊ぶ姿に刺激を受け合う)>

- ・5月からお客として、5歳児や4歳児の遊びを見ていた3歳児が、空き箱を使って作った楽器でショーを始めた。その様子を見たF児たちは、「自分たちも楽器が作りたい」と、楽器の作り方を3歳児の担任に教えてもらいに行った。

このように、「幼児の状況を理解する視点」を捉えて教師が援助し、困った場面を乗り越える経験を重ねることで、自分たちで主体的に遊ぶ姿が見られるようになった。

1 幼児の実態

- ・好きな遊びの中で、イメージしたものに近付けたいと、材料を使い分け、よりよくしたいと試したり工夫したりする姿が多く見られるようになってきた。
- ・鬼ごっこ、ドンジャンケン※などのルールのある遊びでは、教師や友達と一緒に動くことを楽しんでいて、少しずつ、自分なりの動きを出して遊ぶようになってきた。
- ・運動会に向けての踊りや体操など学級で行う活動は、「できない」「これでいい」と言って、積極的に取り組もうとしない姿もあった。しかし、教師が励ましたり、やり方を伝えたりすることで、あきらめずに最後までやり遂げる楽しさを感じるようになってきた。
- ・今まで関わりの少なかった友達と一緒に遊ぶ姿も見られるようになってきた。思いが伝わらなかつたり思いを言葉で表せなかつたりして、もどかしさを感じている幼児もいるが、少しずつ、自分なりに友達との関わり方を考えて遊ぶようになってきている。

2 本時のねらい

- ・友達と一緒に遊んだり、踊ったり、体を動かす心地よさを味わう。
- ・自分から遊び始めたり、先生や友達と好きな遊びを十分に楽しんだりする。
- ・自分の思いを言葉や動きで表そうとする。

3 1日の遊びと学級全体の活動の設定理由

今回の検証保育では、「主体的に遊ぶ幼児の姿」《表1》の「自分自身への気付き」や「言葉での表出」の視点から、「踊りたい気持ちはあるが行動に移せない(場面1)」「製作したいが技術が伴わずあきらめてしまう(場面2)」「言いたいことがあるが言えない(場面3)」などの姿が見られることが予想された。これらの場面について、「乗り越えるための援助」を考えることにした。

また、意図的に学級全体の活動として「ドンジャンケン」をする機会を設けた。これまで、好きな遊びの中では、学級の3分の1程度の幼児が楽しんでいて、やってみようという気持ちはあっても、なかなか行動に移せないでいる幼児もいた。

これらのことから、これを機会に新しい遊びに挑戦する機会を設定し、教師が援助を工夫することで「やってみよう」と幼児が心を動かされて遊びに参加し、初めてのことにに対する抵抗感ややりたい気持ちがあっても行動に出せないという課題を乗り越えていけるようにしたいと考えた。さらに、ルールのある遊びを設定することで、ルールや順番を守ることが課題となっている幼児についても、そのことと向き合う機会にしたいと考えた。

○ 教師が願う主体的な幼児の姿

(「主体的に遊ぶ幼児の姿」《表1》から)

- ・自分から動き出して遊びを見付けたり、選択したりする。
- ・相手の思いや考えを聞こうとする。

※ドンジャンケン

参加者を2つのグループに分け、同時に両側からスタートし、出会ったところでジャンケンをする。勝ったほうが先に進み、負けたほうは自分の陣地へ戻り、順番の最後に回る。先に相手の陣地に到達できたグループが勝ちというルールのゲームである。

<ドンジャンケン>



平成22年9月27日(月) 研究保育日案から この日に見られた「乗り越える体験への援助と幼児の姿」(※ 吹き出し内が、当日の姿)

時間	生活の流れ	予想される幼児の姿(・) ねらい(◎)	環境構成及び教師の援助(☆)
9:00	○登園する ・挨拶をする ・所持品の始末・うがい・手洗い ○好きな遊びをする(戸外)		《いろいろな製作》 ・空き箱、いろいろな紙などを使って、自分がいメージするものを作る。 場面2 J児が、空き箱で作ったカメラが壊れる。他の遊びが気になり、見て回ることもあるが、自分で気持ちを戻す。ビニルテープで貼ろうとしたら、予めビニルテープを切っておいて貼ろうとテープを使い、やとと上手くいく。 ○考察 幼児の状況を理解する視点 A. 意欲や意志の強さの視点が ら、カメラを直したい気持ち が強い。 見守る(距離をおく) 乗り越えるための教師の援助
9:30	・虫探し・ドングジャンケン ・固定道具・かくれんぼ ・砂のごちそう作り・玉入れ(室内) ・中型積み木でごっこ遊び ・製作(車・転がるおもちゃ等) (テラス) ・いろいろなリズムや体操等 ・種採り	場面1 女児四人が、テラスにステージと客席をつくり、踊りを楽しんでいる。I児はそれを見つと見ている。教師は「一緒に踊ってみる？」と言葉をかけるが、I児は無言である。教師が「やってみたくなくなったら言ってね」と言うと、I児は、うなづく。 ○考察 幼児の状況を理解する視点 A. 意欲や意志の強さの視点が この遊びに加わりたい気持ち が強い。 言葉をかける(誘う) 乗り越えるための教師の援助 教師は、I児に意欲があると捉えて言葉かけた。しかし、今のI児にとってはステージに立つことよりも、見ていることの方が関心があった。 ※ P14にI児のその後の姿を掲載	《いろいろな紙などを使って、自分がいメージするものを作る。》 場面2 J児が、空き箱で作ったカメラが壊れる。他の遊びが気になり、見て回ることもあるが、自分で気持ちを戻す。ビニルテープで貼ろうとしたら、予めビニルテープを切っておいて貼ろうとテープを使い、やとと上手くいく。 ○考察 幼児の状況を理解する視点 A. 意欲や意志の強さの視点が ら、カメラを直したい気持ち が強い。 見守る(距離をおく) 乗り越えるための教師の援助
10:20	○片付ける		
10:45	○公園で遊ぶ ・リズム「ド!ド!ド!ド!ドラゴン」 ・かけっこ	場面3 K児、L児、M児が、中型積み木でコースを作り、トイレットペーパーの芯を車に見立て、転がして遊んでいる。そこへJ児がやってきてコースを壊してしまう。三人は黙って遊び続ける。教師は、「今みたいなときは、『やめて』って言っていいんだよ」と言葉をかける。三人は無言のままだった。翌日、まったく同じような場面があり、その時はM児が「やめて!」と言えた。 ○考察 幼児の状況を理解する視点 C. 物事への取り組み方の視点から、この遊びを続けるための思いが強い。 言葉をかける(促す) 乗り越えるための教師の援助 前日、当日と、遊びを継続しており、この遊びへのこだわりは強く、翌日の発言につながった。	《中型積み木を使ったごっこ遊び》 ・友達と、どのような場にしよるか話しながら、自分たちで場面を設定して、ごっこを楽しむ。 ◎言葉を交わしながら、友達と一緒に遊ぶことを楽しむ。 ◎自分の思いを、言葉や動きで表そうとする。 ☆友達と決めた場面設定や場を実際に生み出せるよう、積み木の構成で難しそうなところは、ヒントを出したり手伝ったりする。安全面には、十分に気を配る。 ☆思いを言葉でできずに困っている幼児は、言葉を引き出した後、代弁したりなどの援助をする。自分なりの言葉で言えたときには、そのことを認める。
11:30	○昼食準備・昼食		
13:00	○好きな遊びをする		
13:15	○片付ける ○クラス全体でドングジャンケン(P15 参照) ○クラス全体で遊ぶ ・歌「とんぼのめがね」 ・絵本 ・今日の振り返りと明日の話 ○降園の支度をする ○降園する		
14:00			

評価の観点(・幼児 ○教師) ・友達と体を動かす楽しさを味わっているか。・自分の好きな遊びを十分に楽しんでいるか。・思いを、言葉や動きで表しているか。
○興味はあるが、一歩が踏み出せない幼児に対して、寄り添い、支える援助ができていないか。○思いを引き出すような援助がされているか。

5 I児のその後の姿と「乗り越える体験」への援助

9/28 四人の幼児は、前日に引き続き、踊りを楽しんでいるが、I児は、廊下でごっこ遊びを楽しんでいた。この日は、踊りを見に行くこともなかった。教師は、見守ることにした〔考察①〕。

9/29 この日も、最初は、踊りには見向きもしない。前週の運動会の未就園児へのプレゼント作りの経験を生かし、紙テープと色画用紙の端紙で自作のメダルを一生懸命にいくつも作っていた。このようなI児の姿を教師は見守ることにした〔考察①〕。しばらくして、踊っていた幼児たちに「はい」と言って、メダルを首に掛けてあげていた。

○ 考察

①踊りには関心を示さないI児の姿から

幼児の状況を理解する視点	・ C. 物事への取り組み方の視点から、踊りへの気持ちは薄れている。
乗り越えるための教師の援助	見守る（待つ） 踊りへの気持ちは薄れていることから、ここで踊ることと向き合わせることはI児の思いに添っていないと考え、しばらく様子を見守ることとした。

10/4 N児と一緒に、自分たちでカセットデッキを操作して、運動会のリズムを繰り返し踊る姿が見られた。教師が客席をつくり、客として手拍子を打つと、それに気付いて嬉しそうにし、こちらを向いて楽しそうに踊った。教師が去った後も、しばらく二人で楽しんでいた〔考察②〕。

○ 考察

②N児と楽しそうに踊るI児の姿から

幼児の状況を理解する視点	・ A. 意欲や意志の強さの視点から、「踊りたい」という気持ちが強い。 ・ C. 物事への取り組み方の視点から、繰り返し取り組み、踊ることに向き合っている。 ・ D. 友達との関わり方の視点から、積極的にN児と関わり遊んでいる。
乗り越えるための教師の援助	やり方を知らせる（提案する） N児の存在が刺激となってI児の心が「踊りたい」と動いたものと思われる。これまでの姿から、次回またこのように踊りに気持ちが向く機会はいつになるか分からないと思ったため、教師が客席をつくり、客になることで、友達と一緒にステージをつくって遊ぶ楽しさを感じられるようにした。

【全体を通しての考察】

この一週間、教師が「見守る（待つ）」という援助を行ったことで友達の姿を見ながら、様々なことを感じ考え、I児の踊りに対する気持ちが心の奥底で温められていたものと思われる。

N児と一緒に遊び始めた姿をI児が自分から楽しく踊って遊ぶきっかけになると教師が捉え、「やり方を知らせる（提案する）」という援助を行ったことで、I児は「踊りたいけれど行動に移せない」という姿を乗り越えることができたと考えられる。



6 「ドンジャンケン」指導案と当日の活動における「乗り越える体験」への援助

(☑ 内が、当日の姿)

□指導内容・予想される幼児の姿	環境構成・教師の援助	評価の視点
<p>○友達の遊ぶ姿を見て、この遊びに対する意欲をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「早くやってみたい」と意欲をもつ。 ・「自分にもできるだろうか」と不安に思う幼児もいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これからの活動に期待感をもてるよう、幼児が見ている前でラインを描いていく。 ・遊びのイメージ、ルールが共通になるよう、これまでに遊んだことのある幼児に、手本として実際に動いてもらう。 	<p>○期待感をもった眼差しで、教師のラインを引く姿や、友達の手本を見ているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身を乗り出すようにして見ている。 ・関心を寄せて見ている。 ・教師が声をかけると関心を向ける。 <p style="text-align: right;">など</p>
<p>○児は当初、期待感と不安感が居合わせたような表情をしていた。友達の動きを見たことで、笑顔が出るようになった。自分の番が来ると、声を出しながら楽しむ姿が見られた [考察①]。</p>		
<p>○友達と触れ合いながら、体を動かして遊ぶ楽しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一生懸命走る。 ・友達と出会う瞬間に面白さを感じる。 ・自分の番が来て、緊張して動きが止まる幼児もいる。 ・自分の番が来るのを、心待ちにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・抵抗なくゲームに入れるよう、生活グループでチームを組む。 ・「ドン」のタイミングを合わせやすいように、教師も声を出す。 ・意欲が増し、楽しさを感じられるように、頑張っている姿を認めたり、応援したりする。 ・緊張して動けない幼児には、状況により、 ①手を引いて伴走する。 ②声で動きを促す。 ③教師が替わりに走る。 ④次の幼児に走ってもらう。 などの援助を行う。 	<p>○友達と一緒に体を動かす楽しさを味わっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楽しそうに参加している。 ・自分の順番や、友達の様子には、あまり関心がないが、教師が促すと楽しんで参加している。 ・緊張しながら、周りの様子を見ている。 <p style="text-align: right;">など</p>
<p>普段、「何でも1番」にこだわるP児が、順番を守らずに割り込もうとした。「P児ちゃん、順番ね」と言葉かけると、P児はハッと、友達に順番を譲った。教師がうなずくと、P児もうなずいた [考察②]。</p>		
<p>○次回に期待感をもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・次回に期待をもてるよう、またクラス全体で行うことを伝えたり、「好きな遊びの中でも遊ぼう」と話したりし、終わりにする。 	<p>○「またやりたい」という思いをもっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「またやりたい」と声に出している。 ・楽しそうな表情をしている。 ・あまり、楽しそうな表情はせず、次回への期待感は薄い。など

○ 考察 (協議会で話し合われたことを含む)

①○児の表情から

幼児の状況を理解する視点	C. 物事への取り組み方の視点から、手本を見れば安心して参加できる。
乗り越えるための教師の援助	やり方を知らせる (モデルを示す) 最初に、経験のある友達がやってみせる場を設けたことにより、「自分もやってみたい」と心が動き、安心して取り組むことができた。

②P児の割り込もうとした姿から

幼児の状況を理解する視点	<ul style="list-style-type: none"> ・B. 周囲への気付きの視点から、友達の動きやゲームの進行状況も視野に入っている。 ・E. これまでの経験の視点から、直接的な言葉を出せば自分でそのことに気付く。
乗り越えるための教師の援助	言葉をかける (気付かせる) 直接言葉をかけたことで、順番を守らなくてはいけないことに気付くことができた。ルールを守らなければ楽しく遊ぶことができない、「もっと遊びたい」と心が動き、「順番を守る」ということと向き合い、乗り越えることができた。

【全体を通しての考察】

幼児の実態を捉え、やり方を知らせるために、好きな遊びの中で楽しんでいる幼児の様子を見せたことで、どの幼児も安心して取り組むことができた。さらには、ゲームの中のみならず、教師が「Pちゃん、順番ね」などと少し声をかけるだけで、自分で考えて乗り越えることができた。

Ⅷ 研究のまとめ

- ・主体的に遊ぶ幼児の姿を、年齢や発達に応じて明らかにしたことで、教師は幼児の発達に見通しをもって適切な援助をすることができるようになることが分かった。また、項目としてあげた、「場への関わり」「人への関わり」「物への関わり」「自分自身への気付き」「言葉での表出」という五つの視点から捉えたことで、幼児の実態を具体的に思い浮かべながら教師自身が課題や困難を乗り越えるための援助を考えることができるようになった。
- ・幼児が困ったと感じたり思い通りにならなかつたりする場面を捉えるときに、五つの「幼児の状況を理解する視点」を明らかにしたことで、幼児が今、どのような状況にあるのかを丁寧に把握することができるようになった。また、明確な視点と意図をもち、適切な援助を具体的に考えながら保育に当たることができるようになった。
- ・事例検討をするときに、幼児の心がどのように変容しているのかを知り、捉えることを重視した。そして、幼児の遊びの姿を丁寧に把握していったことで、一つの場面から幼児の経験していることがたくさんあることが分かった。いろいろな方向から心情を汲み取ることで、適切な援助を探ることができた。
- ・乗り越えるための援助を明らかにしていく過程で、幼児の姿から、幼児自身は困難を感じていなくても、教師が幼児に「これを乗り越えてほしい」「このことに向き合ってもらいたい」と意図することがあることも明らかになった。幼児の実態を捉えたときに、
 - ・幼児自身が困っているのか、困っていないのか
 - ・困難を乗り越えるために援助を必要としているのか、必要としていないのか
 - ・今はあえて向き合わせなくてよいのか、それとも向き合わせるのかなどを考えて、幼児一人一人の年齢や発達などに応じて援助の在り方を考えていく必要がある。
- ・事例検討を通して、今回、改めて分かったことは、友達や教師など人との関わりが、困難と向き合うときの大きな心のよりどころになっているということであった。また、困難を乗り越えた幼児は、その体験を通して、できるようになった喜びや達成感など、心が動く体験を重ねていることが分かった。また、その後の姿からも、様々な困難を、心を動かされる体験を通して乗り越えることで、主体的に遊ぶ力の育成につながっていくことが分かった。

Ⅸ 今後の課題

本研究を通して、「幼児の状況を理解する視点」や「乗り越えるための援助」について分析・考察を進め、幼児の姿から援助の在り方を明らかにすることができた。

今後は、さらに、多くの事例を検討し、分析・考察していくことで援助の在り方を検証するとともに、保育に生かしていきたい。



平成22年度 教育研究員名簿

幼稚園

地区	学校名	職名	氏名
文京区	明化幼稚園	教諭	◎多比良 由 恵
江東区	ちどり幼稚園	教諭	貞 方 功太郎
世田谷区	砧幼稚園	教諭	山 路 智 之
荒川区	尾久第二幼稚園	教諭	岩 本 卯 月
荒川区	東日暮里幼稚園	教諭	新 井 智 佳

◎ 世話人

[担当] 東京都教職員研修センター 研修部 授業力向上課
指導主事 島 崎 智 恵

平成 22 年度
教育研究員研究報告書
幼 稚 園

東京都教育委員会印刷物登録

〔平成 23 年度第 46 号〕

平成 23 年 6 月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課
所在地 東京都新宿区西新宿二丁目 8 番 1 号
電話番号 (03) 5320-6836
印刷会社 有限会社 シーダー企画
住 所 東京都新宿区西五軒町 7-10
電話番号 (03) 5228-3451